

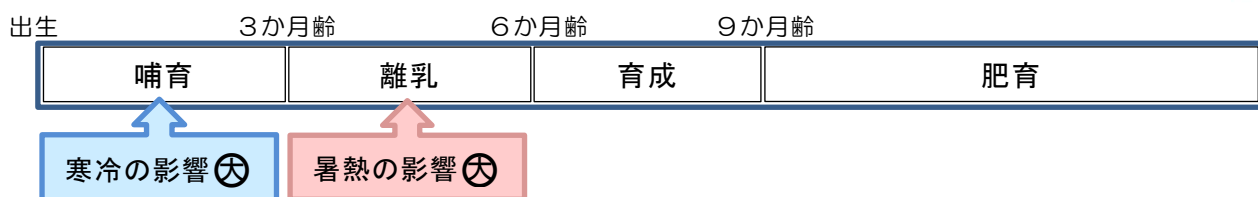
令和7年(2025年)4月17日

早めの暑熱対策を！

肉用牛では、冬から春に生まれた子牛は市場出荷時の DG（1日平均増体量）が低い傾向であると言われています。これは、ルーメンが発達する4～6か月齢に暑熱ストレスを受けることが関係しています。

また、乳用牛では暑熱ストレスの影響により乳量乳質の低下、発情の微弱化等による繁殖成績の悪化、病気にかかりやすくなるなどの被害が起きる可能性があります。

今年も夏（気温が28℃以上になる時期）が近付いたら要注意です！



《暑熱対策の具体例》



② 牛舎外

- ・屋根の石灰塗布・散水
- ・よしず・寒冷紗・遮光ネットの設置

① 牛舎内

- ・牛体の細霧散布
- ・送風機・換気扇の増設

③ 飼養衛生

- ・牛の毛刈り
- ・夜間給餌・頻回給餌
- ・飼槽・水槽の清掃
- ・粗飼料の細断
- ・ビタミン・ミネラル等の補給



令和7年度がスタートしました！

本年度も、家畜伝染病への防疫対応はもとより、飼養衛生管理に係る検査・指導や病性鑑定による疾病の発生予防や生産性の向上、畜産物の安全性の確保を通じて、地域の畜産振興に取り組んでまいります。昨年に引き続き宜しくお願い致します。

所長 今村 友子

○ 保健衛生課 課長：後藤

動物薬事、生産性向上、家畜改良、畜産物の安全性確保、環境衛生の技術指導などを担当します。

○ 防疫課 課長：多田

家畜の伝染病予防、特定家畜伝染病防疫対策、試験・検査などを担当します。